パラソル

くにたち男女平等参画ステーション

Vol. 11

2023 Sep.

だれもが安全で安心に利用できるトイレとは？…p.4
「トークバック 沈黙を破る女性たち」上映会 開催報告…p.5
東京レインボープライド出展報告…p.5
地域の取り組み「NPO法人くにたち農園の会」…p.6
公民館・中学校への出前講座…p.6
パラソルおすすめの本…p.7
出前講座・相談のご案内など…p.8

特　集

パラソルが皆と共に考えたいこと

4千件以上の相談から見えること

パラソルが皆と共に考え

「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」の拠点施設としてスタートしたパラソルは今年で開館５周年を迎えました。市民の皆様と共にパラソルを創っていきたいと歩んできましたが、必要な存在になったのでしょうか？ まだまだ何をしているのか、何をするところかわからない方も多いと思います。

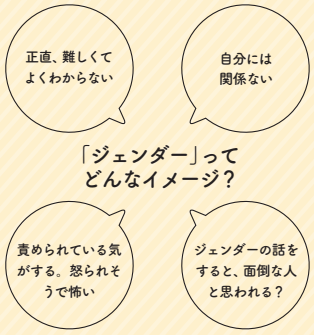
Q.そもそも「男女平等参画センター」って何？

性別に関わらず、どなたでも利用・活用できる施設です。全国各地にあり、施設によって相談事業や啓発事業、情報誌発行などを行っています。国立市の**パラソルは相談事業中心の小さな施設**です。

Q.パラソルではどんなことをしているの？

様々なお悩みをお聞きしています

相談無料　詳しい日程についてはP.8をご覧ください



●開館から5年間で4890件の相談をお受けしています
（2018年5月～2023年5月）

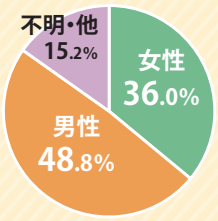
●「相談」で気づいたことは、悩みの根底に「ジェンダー」や「らしさ」のとらわれがあるということ

これまで相談を受けて感じることは、悩みの根底に自分や他人に対する思い込みや決めつけが多く、それは性別に関わることがほとんどであるということです。女、男、母、父、息子、娘、それぞれがイメージする役割を果たせていないかもしれないという不安。多くの人々がいわゆる「ジェンダー規範」※に縛られていると感じます。

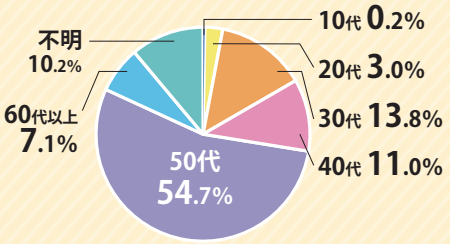
●相談者は女性ばかりではありません

男性やセクシュアルマイノリティの方からの相談も多いです。性別、年齢に関わらず多様な方々の相談を受けています。

相談者の性別



相談者の年代



2022年度 パラソル生きかた相談

「ジェンダー平等」とはすべての人に関係するとても身近で大切なこと

パラソルちゃん

「ジェンダー平等」はすべての人に関係する、とても身近で大切な問題です。ジェンダー平等を目指すことは、窮屈になることではありません。選択肢が増えて自由度が広がること。誰もが生きやすい社会をつくるために必要なことだと思います。そしてジェンダー平等を目指すために大切なことは、話し合い、考え、共に歩んでいくことではないでしょうか。まずは安心できる人や場所で話してみましょう。見つからない人はいつでもパラソルに来てほしいと思います。そして私たちも一緒に考えていきたいです。

用語解説

【ジェンダー】
生物学的な性別（sex）に対し、社会的、文化的に作られる性別のこと。「男・女らしさ」といった社会によって作られた役割の違いにより生まれる性差。

【ジェンダー規範】
男性と女性がどのようにあるべきで、どう行動し、どのような外見をすべきか、という考え。（「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」など）

えたいこと　4千件以上の相談から見えること

身近にあるジェンダーや生きかたなど、モヤモヤを話せる誰でも交流会
ふらっと！しゃべり場

多くの市民の方のお話を聞き、自分の気持ちを自分の言葉で話す場所を作りたいと始めたのが「ふらっと！しゃべり場」です。テーマは相談内容、しゃべり場で出た会話、社会で話題になっていることなどを基に皆で考えています。10代の学生から70代の方まで性別・世代ともに様々な方が集まります。話し合い、共に考える場所です。

- 毎月第一土曜日の 15：00～17：00
- 事前申し込み不要
- 詳細はパラソル HP・SNS 市内掲示板などでお知らせします。

開催テーマ

3月4日：男になれ!とはどういうこと?～男は強いのか?つらいのか?～
4月1日：嫌われたくない? いい人と思われたい?
5月6日：「けっこん」って何だろう? それってどうして?
6月3日：”レンアイ”について話してみない?
7月1日：ソロですが??
8月5日：もやる言葉ありますか？
9月2日：戦わなくちゃダメですか？
10月7日：「親」と聞いてドキリとする人

ご参加いただいた方より

- もっとバチバチに話すのかと思ったけど和やかでした。
- 参加者は女性ばかりかと思っていたけど、そうではないんですね。
- 親世代の人たちが、自分たちのために何か力になりたいと思ってくれているのを知ることができて力になりました。
- 若い学生さんの意見を知ることができてよかった。
- こんなにも多様な人が集まる場所があるんですね。

意見を聞いてみました！
「パラソルの未来について みんなで話そう」

5月21日（日）に開催した座談会に、11名の方がご参加くださいました。5周年を迎えたパラソルのこれからの未来を、これまで以上に地域の皆さまと共に創っていきたい。そんな願いをこめて意見交換会を企画しました。その様子をご紹介します。

Q. パラソルをもっと知ってもらうために何をしたらよいと思いますか？

- すべての人に知ってもらうことを目指すよりも、必要な人に届くことが大切だと思う。
- 「情報誌パラソル」は内容が充実していて読み応えがある。全戸配布して欲しい。
- 使い方が分からない人もいるのでは？
- 一部の人の場所でない、自分にとっても必要な場所と理解する人が増えて欲しい。
- 悩んでいる人に「ここで相談できるよ」と紹介するためには、より多くの人が知っている場所である必要性もあると思う。

グループディスカッションでは、**「何ができるか、どんな講座イベントが良いか」**などについてアイデアを出し合い、付箋を貼り、全体で共有しました。今回の座談会で頂いた様々なアイデアやご意見を、できることから一歩ずつ形にしていきたいと考えています。

「ジェンダー平等に関する市民意識調査」

2023年5月、国立市ではジェンダー平等に関する皆様のご意見を施策に反映させるための調査を行いました。

◀「国立市 ジェンダー平等に関する市民意識調査」はこちらのQRコード、または市役所HPからご覧いただくことができます。パラソルまたは市役所（市長室）に報告書の冊子があります。ご希望の方はお声がけください。

Q. 国立市のジェンダー平等推進拠点「くにたち男女平等参画ステーション・パラソル」があることを知っていますか？

知っている 10.1%

だれもが安全で安心に利用できるトイレとは？

ここ最近、トイレをめぐる様々な議論が巻き起こっています。ジェンダー平等に関する市民意識調査でも、「ジェンダーレストイレ※を作って欲しくない」「女性トイレをなくさないでほしい」といったトイレに関するご意見が多く寄せられました。

矢川プラスのオールジェンダートイレの入口

社会にあふれる様々なバッシング

2023年6月23日に、いわゆる「LGBT理解増進法」が施行しました。法案が提出された頃から、「法律ができると、“心が女”と言えば男性が女湯や女子トイレを利用できる」「性犯罪が増える」という主張が出回り、トランスジェンダー女性※へのバッシングや、女性の恐怖を煽るコメントがSNSを中心に広がりました。トランスジェンダー女性を犯罪者かのように扱いバッシングする主張は、当事者を深く傷つけるものです。また多くの人を不安にさせ、分断をもたらしています。**性犯罪については、トランスジェンダーではなく「トランスジェンダーを装う性犯罪者」を問題とすべきです。そもそも理解増進法とトイレなどの問題は別問題であり、**法律の施行により、男性と女性が区別されている施設の利用基準が変わる訳ではありません。

トランスジェンダーの現状

トランスジェンダー当事者が、男女で分かれる施設を実際に利用する場合、周囲に気を使いながら悩み、困難を抱えながら利用している、または利用できていない現状があります。そしてトランスジェンダーの性別移行※は、**自分自身と向き合いながら時間をかけて行うことがほとんどで、「心が女」という言葉だけで自由に振る舞っているといった主張とはまったく違う現実がある**のです。

だれもが安全安心な場所であるために

性別に関係なく利用できるトイレはトランスジェンダーだけでなく、異性の子どもやお年寄りに付き添う人なども必要としています。男女どちらにも当てはまらないと感じる人、外見で違う性別と判断されやすい人にとっても使いやすい場所かもしれません。バリアフリートイレは車椅子利用者やオストメイトなど、利用者や機能が集中する一方で設置箇所が少ないため、必要とする人がいつでも利用しやすいとは言いにくい状況です。また、男女別のトイレが安心で必要だという声もあります。だれもが安全で安心して利用できる場所を作るためには、**それぞれの人が必要としていることは何かを知り、選択肢を増やすこと**。そして、**対立やバッシングをすることではなく、共に話し合い、考えること**ではないでしょうか。

用語解説

【ジェンダーレストイレ】・【オールジェンダートイレ】
性別に関係なく利用できるトイレ。広めの個室にオストメイト対応などの機能がついたものや、小さな個室がいくつか並ぶものがある。

【トランスジェンダー】
出生時に割り当てられた性別と性自認が違う人、出生時に割り当てられた性別とは異なる性別で生きている人。

【性別移行】
自認する性別に合わせて外見や身体を移行させる（変える）こと。ホルモン療法や性別適合手術等による「身体的性別移行」と、他者や社会との折り合い、相互承認によってもたらされる「社会的性別移行」という二つの側面があり、数年かけて徐々に移行していくものと言われています。

すべての人にとって「トイレが安心安全であること」は大切なこと。
私たちはこれからも考え続けることが必要です。

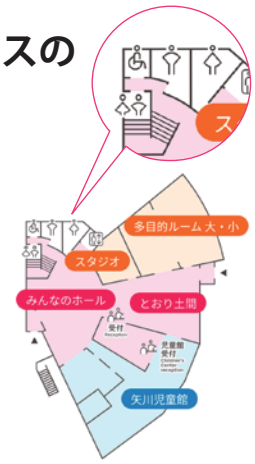
事例1 国際基督教大学（ICU）のオールジェンダートイレ

国際基督教大学（ICU）では、2020年9月、本館1・2・3階中央の大きなトイレが**「オールジェンダートイレ」**に改装されました。同トイレ内には性別に関係なく使える個室や扉付きの男性用小便器が並んでいます。音漏れや盗撮がしづらい構造の工夫もされており、別の場所にはこれまで通り男女別のトイレもあります。設置後のアンケート調査では、オールジェンダートイレについて「大変満足」と「満足」が約60%、「普通」が約30%と、**否定的な意見は少なかったそうです**。

男性用小便器の個別ブース4室

事例2 矢川プラスのトイレ

今年オープンした、「くにたち未来共創拠点矢川プラス」。多世代が利用できる複合公共施設であり、**女性用トイレ、男性用トイレ、車いす優先トイレがそれぞれ2か所、オールジェンダートイレ（多機能トイレ）、子どもトイレがそれぞれ1か所**設置されています。



開催報告｜国際女性デー・ミモザウィークくにたち　2023年3月12日（日）

『トークバック 沈黙を破る女性たち』上映会

坂上香監督

Jikka遠藤良子さん

毎年3月8日は国連が定める国際女性デー。ミモザウィークくにたち（3月1日〜3月8日）には、旧国立駅舎がライトアップされ、国際女性デーのシンボルであるミモザの花の黄色に彩られました。

3月12日（日）、パラソルではNPO法人くにたち夢ファームJikkaとの共催で、**ドキュメンタリー映画『トークバック 沈黙を破る女性たち』の上映会**を開催しました。同作は元受刑者やHIV陽性者の女性たちが、演劇を通して自身の経験を表現する姿を描いています。上映後には、**同作の坂上香監督と「くにたち夢ファームJikka」の代表・遠藤良子さんをお招きし、トークセッション**が実現。それぞれの現場で、声を奪われた人たちの声を聴き続けてきたお二人のトークは、場をエンパワーメントする素敵なものでした。坂上監督の言葉で強く印象に残ったのは「分断は沈黙から始まる」ということ。さらに、DVや生活困窮状態にある女性たちの支援をする遠藤さんが語った「我慢するか・逃げるか・死んでしまうか」以外の選択肢を作ることの重要性は、同作に登場する女性たちの回復過程と繋がるものでした。

タイトルの「トークバック」は、女性たちが声をあげること、呼応しあうことを意味しています。沈黙を破り、言えなかったことを語り始めた女性たちの、自己表現による回復を表す言葉とも言えるでしょう。私たちは声を上げ、それを聴き合うことで、繋がることができる。そんな希望の種を手にした時間となりました。

パネル展示も開催

パネル展示の内容はWEBでもご覧いただくことができます。
3月1日〜31日

開催報告｜東京レインボープライド＠渋谷区代々木公園　2023年4月22日（土）・23日（日）

東京レインボープライド出展

「東京レインボープライド」は**アジア最大級のLGBTQ＋関連イベント**です。今年は2日間で24万人が会場を訪れました。来場された方からは、「自分たちが若い時代にこんな居場所が欲しかった」「自治体がやっているなんてすばらしい。ぜひ活動を広めて欲しい」という声があり、市長・副市長のメッセージを熱心に読む方も多くいらっしゃいました。

「東京10市net」でブース出展

国立市ではこれまで2018年、2019年に出展。**2023年は多摩地域で連携してLGBTQ+ユース支援に取り組む「東京10市net」として、10市（+1市）合同で出展**しました。「東京10市net」では、「一般社団法人にじーず」と協力し、10代~23歳までのLGBTまたはそうかもしれない人が集まる居場所「にじーず多摩」を開催しています。ブースでは10市netの取り組み紹介、市長・副市長メッセージのパネル展示、ワークショップ、トークイベントなどを行いました。

連携市：清瀬市・国立市・小金井市・国分寺市・多摩市・東村山市・日野市・府中市・町田市・武蔵村山市
協力市：小平市

ブースで開催した「レインボーバスソルト作り」のワークショップも人気でした。

4年前と同じ「くにたち」Tシャツを着用して参加

一般社団法人にじーずHP

パネル展示も開催

パネル展示の内容はWEBでもご覧いただくことができます。

くにたち
レインボー月間
5月1日〜30日

くにたち
ジェンダー平等月間
6月21日〜7月31日

NPO法人くにたち農園の会

国立市には南部を中心に約50ha（東京ドーム約10個分）の農地があります。都市農業は近年、地域コミュニティとの結びつきを強め、生活に農業を取り入れる動きが盛んになっていますが、国立市内では農業と地域はどのように関わってきたのでしょうか？ 谷保で「コミュニティ農園くにたちはたけんぼ」を拠点に、農園と子育て支援事業を運営する「NPO法人くにたち農園の会」代表理事・小野淳さんに伺いました。

―― 活動を始めたきっかけと内容を教えてください

国立市が農地を活用しようと動いたことがきっかけとなり、11年ほど前に市民団体ができました。農園をいろいろな使い方ができる場所にしようとボランティアが集まり、谷保に「はたけんぼ」という農園を作ったことが始まりです。農園には子育て中の女性がたくさん集まるようになり、その結果、子育て支援に厚みが生まれ、子育て支援事業は農園事業と並び二本柱となりました。現在は、コミュニティ農園や子育て支援の拠点、認定こども園など、市内に５つの事業所をつくりNPO法人くにたち農園の会を母体とし運営を行っています。

―― 会社員だった小野さんが、なぜ谷保で農業を始められたのですか？

横須賀で育ち、大学卒業後は制作会社でテレビ番組を作っていました。その後、農業に転職し飲食系企業の農場で野菜づくりをはじめ、2009年に国立市の農業法人に転職、市民農園の運営などに従事、まちなかで農業をやることの可能性に気づきました。農業を通して地域とのつながりも生まれ、2014年に独立します。当時、私自身が3人の子育て中であり、田畑のある地域を次の世代に残していくという点と、自分たちの子育て環境を考えて谷保に決めました。

小野淳さん

―― 農業を通して地域と関わり始めてから、どのような変化を感じていますか？

農地に対する見方がとても変わりました。国立市でも住宅が増え農地が減っていますが、畑に行きたいという利用者はありがたいことに増えています。現在、子どもは減っているのに自由に遊べる場所はなくなっています。私の子ども時代、空き地などは格好の遊び場でしたが、今は公園の遊具すら危険だからといって撤去され、子どもの声がうるさいと市役所にクレームが入る時代です。ちょっとでも危ない場所には厳重に柵が作られます。危険回避を繰り返しても、それだけで子育ての不安は無くなるわけではないのです。私たちも社会的な大人の役割として、場所を確保するということをとても意識するようになりました。

―― 地域の未来を考えたとき、計画や実現したいことはありますか？

2年前から畑にフリースペースを設け、日中、学校に行っていない子どもたちを受け入れています。小中学生の25人のうち1人が不登校といわれていますが、文科省も学校以外の選択肢を認める時代になり、「はたけんぼ」に通うと小学生は出席扱いしてもらえるようになりました。最近、そのフリースペースのメンバー内ではヤギを飼いたいと頑張っていますが、飼うと決めると次は小屋を作ろうとなり、真剣なので道具の使い方もどんどん上達します。食べ物を作る、道具を使うなど、人が何千年もしてきた生き物としての営みを教えるには田畑は良い環境です。人や場との出会いから子どもがしたいことを見つけ、それを応援する大人が地域にいる、そういう社会実装を身につける田畑の学校を作りたいと考えています。

NPO法人くにたち農園の会
https://hatakenbo.org/

後　記
事業所の一つである谷保のゲストハウスへ伺いました。インタビューの間も作業する大学生が出入りし、地元コミュニティの力を感じました。都市的な暮らしの中に田畑がある国立の環境を生かした教育パッケージを作ることも夢ではないという小野さんのお話は、とても説得力があり、都市農業への関心が一気に高まりました。

開催報告｜出前講座　　**2023年6月**

公民館・中学校に行ってきました

●国立市公民館主催～女性の生き方を考える講座～女性のライフデザイン
第5回 ＜地域で活動する＞ LGBTQ（2023年6月22日（木））、
第6回 ＜地域で活動する＞ 子育てとジェンダー（2023年6月29日（木））

講座の第5回と第6回、テーマ＜地域で活動する＞の「LGBTQ」「子育てとジェンダー」を担当し、お話をさせていただきました。連続講座ということもあり、参加者の方々の「学びたい」気持ちが伝わり、グループワークでは活発な意見交換もありました。こちらの方がエンパワーされ、とても良い時間でした。

●国立第二中学校「多様性について考える」時間（2023年6月29日（木））

「多様性について考える」をテーマに、国立第二中学校の全学年に授業を行ってきました。事前アンケートをとり、こちらからの質問に答えてもらい、性的マイノリティ当事者のお話も一緒に聞きました。中学生に少しでも何かが届いていることを願っています。

このように様々な場所で共に考えています。出前講座をご希望の方はパラソルにお気軽にお問い合わせください。

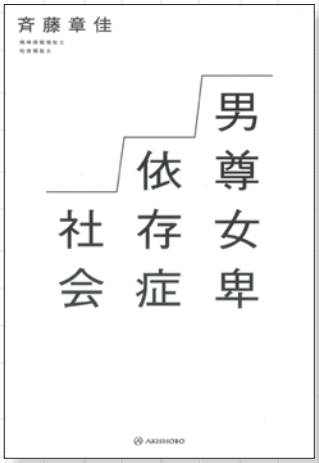
パラソルおすすめの本

パラソルスタッフそれぞれの「推し本」をご紹介！

弱音をはく練習

沼田和也（著）2023年 ベストセラーズ

弱音を吐くのは難しい。親密な関係だからこそ、相談できないこともある。生きることを投げ出したくなった時、恨みや妬みから逃れられない時、名前のつかない苦しみに潰れそうな時……牧師である著者は、そんな危機的状況にある人たちの話を聴き続けてきた。自身の痛みや弱さを自己開示しながら紡がれる言葉は、そっと傍で寄り添う優しさに溢れている。パラソルも皆さんが弱音を吐いて逃げ込める場所の一つになれたら嬉しい（🌺）。



男尊女卑依存症社会

斉藤章佳（著）2023年 亜紀書房

精神保健福祉士・社会福祉士として依存症治療に携わる著者は、依存症（アルコール・薬物・痴漢・万引・DV）は、男らしさ・女らしさの病であると言う。そして、依存症を生み出す日本社会が、男尊女卑という価値観に依存していると喝破する。「～すべき」に縛られ、その人らしさが潰される社会は、誰にとっても生きにくい。「男尊女卑」という言葉にムッときた方ほど、楽になれる言葉がきっと見つかります（🌺）。

「AKK女性シェルター」から「DV防止法」制定へ

波田あい子・内藤和美・亀田温子（著）2023年 かもがわ出版

「DV」という言葉が普及した1990年代。当事者主体のシェルターを創設し、「DV防止法」制定への働きかけを続けてきた活動の貴重な記録です。全国に広がり、制度につながる様子が丁寧に書かれています。現在の支援活動に当時の経験が充分にいかされているか改めて考えさせられます。次世代に活かしていきたいことがつまった一冊です（😊）。

職場で使えるジェンダー・ハラスメント対策ブック

小林敦子（著）2023年 現代書館

「ジェンダー・ハラスメント」とは、ジェンダーに基づく役割を他者に期待する行為。「差別をやめよう」と投げかけてもなくならないこの問題に、著者が心理学的アプローチにより分析、研究を重ね、生み出したのが『「ジェンダー」という言葉を用いない『ジェンダー・ハラスメント研修』』。研修内容と効果の紹介もあり、職場のハラスメント防止に役立つ新たな視点を持てる一冊（🟩）。

笹錦さんと30歳の悩める仲間たち

永田正実（著）2021年 集英社

生まれつき、他人にも自分にも厳しい主人公・笹錦さんをコミカルに描いている。30代4児の母となった今、笹錦さんの諦めない生き方は、本人はもちろん、それぞれに日々悩む友人たちをも成長させていく。笹錦さんの厳しい一言には隠れた愛があり、心に響き、時にホロっともくる。この一言が言える笹錦さんにどこか憧れたり、読んだら日頃の悩みも軽くなるのでは？とも思えるコミックスです（🍁）。

田嶋先生に人生救われた私がフェミニズムを語っていいですか!?

田嶋陽子・アルテイシア（著）2023年 KADOKAWA

TVに出ていた頃の田嶋先生は怒っているイメージが強い。けれどそれはマスコミに作られた姿で、本やインタビュー記事を読んでみると、自分を楽にするためのフェミニズムを実践し、人生を楽しもうとする姿が浮び上がる。フェミニズムを学問でなく、漫才で伝えたいと思っていた田嶋先生と、「膝を打つ」を「膝パーカッション」と言い換えるなど、漫画の表現なども多用した面白コラムを書いているアルテイシアさん。2人がつないだ、自由で愉快でポジティブなフェミニズムのバトンを受け取ったような気がした（💜）。

出前講座のご案内

●男女平等参画講座

男女平等参画社会とはどういう社会なのか。性別による固定的な役割分担意識から、女性、男性、それぞれの生きづらさについて考えます。

●ドメスティックバイオレンス予防講座

DV（配偶者からの暴力）の現状や取り組みに関する正しい知識を身に着け、「DVをしない、させない、見逃さない」大切さについて学びます。

●デートDV予防講座

デートDV（交際相手からの暴力）について知り、被害者にも加害者にもならないために、お互いを尊重するコミュニケーションを学びます。

●性の多様性・LGBTQ・SOGI（ソジ）講座など

自分らしくあるとは？ 性の多様性をじぶんごととして捉え、誰もが自分らしく生きられる社会の構築に向けて、一人ひとりが自分にできることを考えます。

上記以外もご要望により対応いたします。ぜひご相談ください。

【対　象】企業、学校、地域グループなど概ね10名以上
【会　場】国立市内
【時　間】60分～90分（ご希望により調整いたします）
【費　用】無料　※資料代をご負担いただく場合があります。
【申　込】開催希望日の1か月前までにお申し込みください。
申込用紙はパラソルHPからダウンロードできます。

STOP DV・子どもを守ろう！ Woman Child くにたち

ダブルリボンキャンペーン2023 開　催

毎年11月は、「女性に対する暴力をなくす運動」（11月12日～11月25日）、そして「児童虐待防止推進月間」です。国立市では2つのシンボルを組み合わせた「ダブルリボンキャンペーン2023」として、パネル展や講演会などを開催予定。詳しくはパラソルHPでお知らせします。

相談のご案内

家庭、ハラスメント、仕事、人間関係など……「こんなこと、どこに相談したらいいんだろう？」と思われたらまずはご相談ください。
相談員による日々のご相談と弁護士や専門家による相談を、曜日ごとに行っております。
プライバシーは必ず守りますので、安心してお問い合せ下さい。

生きかた相談室（1人50分）
［水曜以外の平日］10時～18時
［土日祝］ 9時～16時
（専門相談の時間を除く）

SOGI（ソジ）相談（1人50分）
［第2火曜］16時～18時
［第4日曜］14時～16時

みらいのたね相談（1人50分）
［月1回／日祝］10時～12時
（9/7、10/9、11/5、12/8、2023/1/8、2/23。
3月以降はHPなどでお知らせします）

悩みごと相談（1人50分）
［第3火曜］11時～15時30分

法律相談（1人30分）
［第2・4土曜］13時30分～16時

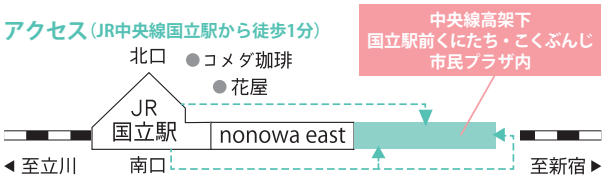
相談 TEL 042-501-6996
予約 TEL 042-501-6990

専門相談は
予約制・無料

開館時間　平日※水曜休館 **10:00～19:00／土日祝日 9:00～17:00**（年末年始はお休み・臨時休館日あり）

パラソル
くにたち男女平等参画ステーション

くにたち男女平等参画ステーション・パラソル情報誌　vol.11　2023年9月発行
［発　行］国立市　［企画制作］くにたち男女平等参画ステーション・パラソル
［編　集・デザイン］株式会社シーズプレイス
＊テキスト・画像の無断転写、転載を固く禁じます。

お問い合わせ
〒186-0001 東京都国立市北1-14-1 国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ内
TEL 042-501-6990　FAX 042-501-6991　info@kuni-sta.com
https://kuni-sta.com
kunista　kuni_sta　kunitachi_sta
HP

アクセス（JR中央線国立駅から徒歩1分）